

専念寺新聞

できました！専念寺の新聞刊行！

発行所
浄土真宗本願寺派
大塚山 専念寺

〒658-0053
神戸市東灘区住吉宮町
2丁目12の7
電話/FAX : 078-841-2031



皆さんお元気でしょうか？この度、専念寺では寺報を発行することになりました！この寺報から専念寺の法要や行事の様子を発信していきます。また、浄土真宗の教えも分かりやすくお伝えしたいと思えます。

皆さんご周知の通り、今年は新型コロナウイルスが世界に猛威を振るい、私たちの生活にも多大な影響を及ぼしています。

緊急事態宣言は解除されましたが、これから第二波、第三波がくるのではないかと油断できない日々が続いています。新型コロナウイルスが流行してからニュー

スなどでソーシャルディスタンスという言葉をよく耳にします。感染予防などの観点から人と人の距離を物理的に空けることが頻繁に叫ばれるようになりました。

電車の中やお店の中、屋外でも意識して人との距離を空ける。また様々なお店のお会計などで飛沫が相手にかかるのを防ぐためにビニールカーテンが張られているのをよく目にします。仕事でも自宅で業務を行う会社も出てきました。ウイルスにうつらないためにも、うつさないためにも、人との距離を空けることは大事であり必要なことですね。

しかし、人との距離を空けることが、人と人との心の距離まで空けてしまっちはいませんか？

ウイルスよりも怖いのは人間だった

三月から四月にかけてマスクやトイレトペーパー、消毒液などが品薄で手に入らない状況でした。この時期、あるドラッグストアで働く女性店員さんはマスクなどを求めるお客さんの対応に必死だったそうです。「マスクはいつ入荷するんだ！」「病人がいていつも買えないのに、一個くらい取り置きしてよ！」などと怒鳴りちらされ、毎日「すみません」「申し訳

ありません」と頭を下げる日が続き、ついにノイローゼになるまで追い込まれたという感想を述べていました。

コロナウイルスが流行る前、笑顔だった常連のお客さんまでもが凄じ剣幕で怒りをぶつけてきた。女性店員さんは言います「コロナよりも怖いのは人間だった」と。目に見えないコロナより、目に見える人間の方が怖い。

私たちは相手を思いやり、慈しむ心があります。しかし、その反面、自分の都合が悪くなると苛立ち、憎み、腹を立てる、そんな心がすぐに表に現れてきます。私さえよければ。私の家族さえよければ。私ががが。自分の都合が悪くなると、もはや他人の事などどうでもよくなる。今回のドラッグストアの店員さんの悲痛な叫びは、私たち人間の心の問題を浮き彫りにしたような気がします。

まだまだコロナの影響は続くかもしれない。先の見通せないそんな大変な中だからこそ、今一度、私たちは他者との心の距離を確かめてみる。そして自分自

五月二十五日に全国で緊急事態宣言が解除になりました。

また、他府県への移動も融和され、少しずつですが日常が戻ってきたのではないのでしょうか。

各ご家庭の月参りやご法事も緊急事態宣言が解除されてから再開しております。しかし、まだまだコロナウイルスの不安は拭いきれません。そこで、ご自宅に入る前に手を消毒し、ご希望であればマスクを着用してお参りさせてい

お参りについて

ただきます。それでもコロナのことが気になるという方は本堂でのお参りも対応させていただきます。本堂は広いのでコロナの不安は少しでも解消されるのではないのでしょうか。ただし、本堂でのお参りをご希望の方は事前にご連絡をお願いいたします。

また皆さんと月参りやご法事、専念寺での法要で一緒にお経を読み、色んなお話ができる日を楽しみにしております！



身の心を見つめる時がきたのかもしれない。しかし、自分自身の心を見つめると言っても、じゃあどう見つめればいいのか？どうやってみつめるの？と言った声が聞こえてきそうですね。

そこで、この寺報から仏教の教えを通して、自分自身の心を見つめる一助となり、少しでも仏教の教えに興味をもっていただければ幸いです。

そして、この寺報が縁となり、お寺の行事に足を運んでもらえればと思っております。

お寺楽しいですよ♪

